

『ブロンテ・スタディーズ』バックナンバー

巻	号	出版年	主な内容	著者	備考	在庫
1	1	1986	日本ブロンテ協会の実現	河野多恵子		無
			シャーロット・ブロンテの試行錯誤	中岡洋		
			『嵐が丘』論 ——ヒースクリフの二面性について——	澤渡玲子	奨励賞受賞論文	
			エミリとブロンテ姉妹 英文学ロマンの旅 ——ブロンテ文学の源を中心に I. ブロンテ・ツアーに参加して II. ブロンテ姉妹の世界を訪ねて	斉藤由美子	奨励賞受賞論文	
				桑原幸子 佐藤明子		
1	2	1987	ハワースにて	河野多恵子		無
			シャーロット・ブロンテと伝統 ——現在における『ジェイン・エア』	青山誠子		
			ジェインとシャーロットにおける食と生	宇田和子		
			『嵐が丘』における不合理性 ——ヒースクリフのあざ笑いの謎——	澤渡玲子	奨励賞佳作論文	
			<i>Wuthering Heights</i> の天上性と地上性 ——CatherineとHeathcliffの愛について——	楚輪松人	奨励賞佳作論文	
			『嵐が丘』の倒叙法 ——謎は解かれた——	嶋茂幸	奨励賞佳作論文	
			『嵐が丘』における日記の意味 ——キャサリンとヒースクリフの愛の呼応——	小林里美	奨励賞佳作論文	
1	3	1988	『嵐が丘』の語りの効果とアイロニー	鮎澤乗光		無
			シャーロット・ブロンテの小説 ——試練を超えて—— (その1)	樋口陽子		
			Lucy Snoweの人間形成の過程	青山加奈	奨励賞佳作論文	
			孤独と握手 ——『ヴィレット』小論	金子弥生	奨励賞佳作論文	
			「『嵐が丘』の舞台をめぐる旅」報告	中岡洋		
			『嵐が丘』の舞台をめぐる旅	朝日千尺		
			ブロンテを訪ねる旅	飯島朋子		
1	4	1989	『ヴィレット』のいろいろな読み方	都留信夫		無
			シャーロット・ブロンテの小説 ——試練を超えて—— (その2)	樋口陽子		
			罪と宿命——『嵐が丘』への一考察——	大平栄子		
			レベッカ・フレーザー著 『シャーロット・ブロンテ論』	朝日千尺	書評	
			神山妙子編 『愛と結婚——イギリス小説の場合』	榎本義子	書評	
			鮎澤乗光著『イギリス小説の読み方 ——オースティン,ブロンテ姉妹,エリオット,ハー ディー,フォースター』	直野裕子	書評	
			川口喬一著 『小説の解戦略——「嵐が丘」を読む』	大野龍浩	書評	
			稲元理恵子著『嵐が丘の秘密』	高野秀夫	書評	
1	5	1990	書くことと隠すこと——『ヴィレット』の一面	海老根宏		無
			アンゲリア伝説に見るヒロイン像	岩上はる子		
			<i>Plays in Villette</i>	林 完枝	奨励賞受賞論文	
			シェイクスピアヘッド版ブロンテ全集の 復刊によせて	児玉久雄	書評	
			Elizabeth Imalay, <i>Charlotte Brontë and the Mysteries of Love: Myth and Allegory in Jane Eyre</i>	大平栄子	書評	
			中岡洋編著『ブロンテ姉妹の留学時代』	高見幸郎	書評	
			宇田和子「『嵐が丘』におけるフラクタル」	鈴木美津子	論文紹介	
			第2回ブロンテ・ツアー報告	中岡洋 芦澤久江 吉澤史江		
			日本におけるブロンテ研究書誌 (その1,2)	樋口陽子 金子弥生		

1	6	1991	The Brontës' Younger Women	Arthur Polland	論文	無
			シャーロット・ブロンテとフェミニズム ——『シャーリー』における二人の男性	白井義昭	論文	
			『嵐が丘』論——窓ガラスの秘密	芦澤久江	奨励賞受賞論文	
			シャーロット・ブロンテとガヴェネス	大槻董子	研究ノート	
			Victor A. Neufeldt, ed. <i>The Poems of Patrick Branwell Brontë</i>	野中涼	書評	
			Elizabeth Langland, <i>Anne Brontë: The Other One</i>	廣田稔	書評	
			大橋洋一訳 『テリー・イーグルトンのブロンテ三姉妹』	山本和平	書評	
			日本におけるブロンテ研究書誌（その3）	樋口陽子 金子弥生		
2	1	1992	アン・ブロンテの求めた女性像 ——小説の中のヒロインたち——	山口弘恵	論文	無
			<i>Villette</i> versus <i>Jane Eyre</i> --The Path of the Outsider--	Yumiko Hada	論文	
			シャーロット・ブロンテの結婚と愛 ——マリッジ・セツルメントと遺言をめぐって——	川田秀子	研究ノート	
			'a chainless soul'と『エミリー・ブロンテ』	植松みどり	研究ノート	
			Edward, Chitani. <i>A Life of Anne Brontë</i>	内田正子	書評	
			大平栄子著 『「嵐が丘」研究』	宇田和子	書評	
			中岡洋訳 『エミリー・ジェイン・ブロンテ全詩集』	森松健介	書評	
			日本におけるブロンテ研究書誌（その4）	文献委員会		
2	2	1993	詩、散文と詩的散文の特異性	柳五郎	論文	無
			アン・ブロンテの詩	森松健介	論文	
			シャーロット・ブロンテの心の美学 ——ジェイン・オースティンとの比較において	白井義昭	論文	
			『ブランウェル・ブロンテ フルート曲集』と『アン・ブロンテ歌集』	樋口陽子	研究ノート	
			Carol Bock, <i>Charlotte Brontë and the Storyteller's Audience</i>	佐藤和代	書評	
			Patricia H. Wheat, <i>The Adytum of the Heart, The Literary Criticism of Charlotte Brontë</i>	芦澤久江	書評	
			山口弘恵著 『アン・ブロンテの世界』	児玉久雄	書評	
			白井義昭著 『シャーロット・ブロンテの世界——父権制からの脱却』	内田能嗣	書評	
朝日千尺著 「自然の申し子ジェイン・エア」	榎本義子	書評				
日本におけるブロンテ研究書誌（その5）	文献委員会					
2	3	1994	Emily Brontëと懐疑の時代 ——Unavailability of Godをめぐって——	小菅東洋	論文	無
			『嵐が丘』のゴシックズムとキャサリン・リントンの読書	田中淑子	論文	
			『ジェイン・エア』における夢	吉岡真弓	論文	
			自然、その馴化 ——『シャーリー』について	林 完枝	論文	
			Branwell; 子孫登場の真偽について	多比羅真理子	研究ノート	
			<i>Jane Eyre</i> 'mysterious summons'をめぐって	杉村藍	奨励賞受賞論文	
			『嵐が丘』論——排除の反復	杉村寛子	奨励賞受賞論文	
			書くヒロインと読むヒーロー ——アン・ブロンテ『ワイルドフェル・ホールの住人について』——	大田美和	奨励賞受賞論文	
			Dorothy Mermin, <i>Godiva's Ride: Women of Letters in England 1830-1880</i>	富士川和男	書評	
			Harold Bloom (ed.), <i>Heathcliff</i>	朝日千尺	書評	
			Diane Long Hoeveler & Bath Lau (eds.), <i>Approaches to Teaching Brontë's Jane Eyre</i>	吉田尚子	書評	
			早越弘子著 「『嵐が丘』におけるヒースクリフの役割」	金子弥生	書評	

			山田明子著「ソーニフィールドの囚われ人——『ジェイン・エア』考」	金子弥生	書評	
			日本におけるブロンテ研究書誌（その6）	文献委員会		
2	4	1995	<i>Jane Eyre and Framing the Power Threshold</i>	Rosemarie A.L. Morgan	論文	無
			<i>Jane Eyre</i> : "Jane" Eyre, そして "Jane" Austen	惣谷美智子	論文	
			アンゲリアからの脱出——断章 「アッシュワース」におけるリアリズムの試み	岩上はる子	論文	
			<i>Jane Eyre as The Book of Revelation</i> ——「月」の意味するもの——	中尾和代	奨励賞受賞論文	
			Jill Dix Ghanassia, <i>Metaphysical Rebellion in the Works of Emily Brontë</i>	芦澤久江	書評	
			青山誠子著 『人と思想——ブロンテ姉妹』	柳五郎	書評	
			川本静子著『ガヴァネス（女家庭教師） ——ヴィクトリア朝のく余った女>たち』	都留信夫	書評	
			白井義昭訳 『ブロンテ——家族と作品世界』	岩上はる子	書評	
			日本におけるブロンテ研究書誌（その7）	文献委員会		
2	5	1996	The Art of the Brontës	Christine Alexander	論文	無
			狂女の虚実とヒロイン ——『ジェイン・エア』のパーサ・メイスンをめぐって	木村晶子		
			『嵐が丘』におけるドッペルゲンガーの モチーフ	廣野由美子		
			認識のドラマ ——エミリー・ブロンテの「ゴンドル」試論	田村裕二	奨励賞受賞論文	
			Christine Alexander and Jane Sellars, <i>The Art of the Brontës</i>	鈴木万里	書評	
			Lyndall Gordon, <i>Charlotte Brontë--A Passionate Life</i>	阿部美恵	書評	
			青山誠子著 『ブロンテ姉妹——女性作家たちの十九 世紀』	白井義昭	書評	
			中岡洋編著 『「ジェイン・エア」を読む』	久野幸子	書評	
			Brontë Museum Research Library所蔵の 英語以外のブロンテ関係諸文献リスト	青山誠子		
			中国におけるブロンテ研究の動向	青山誠子		
			日本におけるブロンテ研究書誌（その8）	文献委員会		
3	1	1997	ゴンドルの風、嵐が丘の風	佐野哲郎	論文	僅
			イヴの娘たち—— <i>Shirely</i> における女同士の関係	風間未起子	論文	
			交錯する視線 ——C.ブロンテの『ヴィレット』について	木村晶子	論文	
			<i>Wuthering Heights</i> における ロックウッドの語りとゴシック小説	山内理恵	論文	
			『ワイルドフェル・ホールに住人』 におけるセクシュアリティと結婚制度	大田美和	論文	
			女が書く——社会的コンテクスト・ 文学的プリテクスト	惣谷美智子	論文	
			J. オースティンとC. ブロンテ シャーロット・ブロンテの未完の 喪の仕事としての『シャーリー』	石毛奈緒子	奨励賞佳作論文	
			<i>Villette</i> に見る女性の服装と セクシュアリティ：Lucy Snoweの福音主義と家父長制 への反逆	武井暁子	奨励賞佳作論文	
			Jerome Beaty, <i>Misreading Jane Eyre: a Postformalist Paradigm</i>	緒方孝文	書評	
			Charles Lemon (ed.), <i>Early Victorians to Haworth: From Ellen Nussey to Virginia Woolf</i>	津田聖子	書評	

			シャーロット・ブロンテ, パトリック・ブランウェル・ブロンテ著、都留信夫他訳 ブロンテ全集11『アンゲリア物語』	大平栄子	書評	
			アーサー・ボラード著、山脇百合子訳 『風景のブロンテ姉妹』	柴田恭子	書評	
3	2	1998	『嵐が丘』における時間の様相	上田幸子	論文	無
			<i>Wuthering Heights</i> の二つの日記 ——"from manuscript to print"について——	兼中裕美	奨励賞受賞論文	
			『ジェイン・エア』論 ——超自然的場面を中心に	松岡美鈴	奨励賞佳作論文	
			中岡洋・内田能嗣編著 『ブロンテ姉妹の時空——三大作品の再評価』	廣田稔	書評	
			Maria H. Frawley, <i>Anne Brontë</i>	天野みゆき	書評	
			Diane Long Hoeveler, Lisa Jadwin, <i>Charlotte Brontë</i>	武井暁子	書評	
3	3	1999	映像の中のバーサ/アントワネット	津田聖子	論文	無
			エミリー・ブロンテと詩作の問題	兼中裕美	論文	
			シャーロット・ブロンテの作品における鏡の中の女性像	木村晶子	論文	
			<i>Villette</i> --"the homely web of truth" とゴシック	惣谷美智子	奨励賞審査員特別賞論文	
			<i>Villette</i> : Frameの世界で	吉野美智子	奨励賞受賞論文	
			柳五郎編著 『エミリー・ブロンテ論』	押本年眞	書評	
			岩上はる子著 『ブロンテ初期作品の世界』	堀出稔	書評	
			ダニエル・プール著、片岡信訳 『ディケンズの毛皮のコート/シャーロットの片思いの手紙』	中岡洋	書評	
3	4	2000	<i>Shirley</i> をどう読むか?	鮎澤乗光	巻頭論文	無
			特集号「20世紀のブロンテ」に寄せて	富士川和男	特集号論文	
			シャーロット・ブロンテと自然	白井義昭	特集号論文	
			<i>Jane Eyre</i> 批評にみる20世紀の視点	杉村藍	特集号論文	
			『ジェイン・エア』と『パミラ』	井上澄子	特集号論文	
			『ジェイン・エア』と『アニー・ジョン』における色彩の修辭的使用	市川千恵子	特集号論文	
			『シャーリー』の方法 ——二元的思考をめぐって	清水伊津代	特集号論文	
			返事のない手紙 ——Charlotte Brontë, <i>The Professor</i> 試論	田村裕二	特集号論文	
			<i>The Professor</i> におけるmasculinityの支配	吉野美智子	特集号論文	
			20世紀が獲得したもの——「ゴンドル」	芹澤久江	特集号論文	
			20世紀は『嵐が丘』の時代 ——評価の逆転について——	中岡洋	特集号論文	
			『嵐が丘』の'penetratum'	前田淑江	特集号論文	
			Chatherineは誰の子か?	泉忠司	特集号論文	
			往還する想像力——E・ブロンテの『嵐が丘』とバルテュス	久守和子	特集号論文	
			"I could not speak the feeling": Emily Brontëの詩と自己表現	兼中裕美	特集号論文	
			オーソドックスな解釈と脱構築的読み ——「哲学者」の場合	山本紀美子	特集号論文	
			「いくつかの人生観」にみるアンの宗教観	内田能嗣	特集号論文	
			真田時蔵著 『エミリー・ブロンテ』	中岡洋	書評	
			中岡洋・内田能嗣編著 『ブロンテ文学のふるさと』	宇田和子	書評	
			中岡洋・内田能嗣編著 『アン・ブロンテ論』	松原恭子	書評	
			Marianne Thormählen, <i>The Brontës and Religion</i>	白井義昭	書評	
			ブロンテ姉妹と三角貿易	津田聖子	論文	
			『ヴィレット』におけるルーシー・スノウの語り	田村真奈美	論文	
			Emily Brontëの神秘詩No. 148の考察	山本紀美子	奨励賞受賞論文	
			『シャーリー』とガヴァネス問題	松岡美鈴	奨励賞佳作論文	

3	5	2001	廣野由美子『「嵐が丘」の謎を解く』	市川千恵子	書評	無
			バーバラ・ホワイトヘッド著、中岡洋監訳『シャーロット・ブロンテと「大好きなネル」』	清水伊津代	書評	
			Margeret and Robert Cochrane., My Dear Boy. <i>The Life of Arthur Bell Nicholls, B.A. Husband of Charlotte Brontë</i>	舟橋美香	書評	
			Kathleen Constable., <i>Stranger Within the Gates: Charlotte Brontë and Victorian Irishness</i>	田中淑子	書評	
3	6	2002	The Brontë Family's Lives in Thornton, 1815-1830	バーバラ・ホワイトヘッ	巻頭論文	無
			「女らしさ」からの逸脱： <i>Villette</i> のエンディングの意味	奥村真紀	奨励賞佳作論文	
			『ジェイン・エア』における語り手の 身体意識	田村真奈美	奨励賞佳作論文	
			"Remembrance" and "Recollection" in <i>Wuthering Heights</i>	皆本智美	奨励賞佳作論文	
			Julie Nash and Barbara A. Suess eds., <i>New Approaches to the Literary Art of Anne Brontë</i> 協会会員ブロンテ研究文献一覧表 (1996.4～2002.3)	市川千恵子	書評	
4	1	2003	エミリー・ブロンテの実像を求めて	中岡洋	巻頭論文	無
			シャーロット・ブロンテとフェミニズム ——ルソーとウルストンクラフトの狭間で—— <i>Jane's "Stockings"・Mary's "Stockings"</i>	惣谷美智子	研究論文	
			「彼女」の想像力 ——『 <i>Villette</i> 』・二十一章の意義	杉村寛子	研究論文	
			スミス・エルダー社 <i>Lucy Snowe</i> の「雪の墓」 —— <i>Villette</i> における理性と情熱の葛藤——	小野ゆき子	研究論文	
			片山美穂	奨励賞佳作論文		
			花崖—185歳の誕生日に	紫圭子	創作詩	
			三姉妹の石/荒野	鈴木東海子	創作詩	
			Jean Bellamy, <i>'MORE PRECIOUS THAN RUBIES' Mary Taylor : friend of Charlotte Brontë: strong-minded woman</i>	多田知恵	書評	
4	2	2004	序章のヴァリアントに見る『教授』の 未完の可能性	大田美和	研究論文	無
			<i>Villette</i> における五感を通じての表現	渡千鶴子	研究論文	
			母なる大地に棄てられた子供—— <i>Emily Brontë</i> の詩における死のテーマ——	片山美穂	奨励賞佳作論文	
			愛すべきヒロイン——『 <i>ジェイン・エア</i> 』に 潜む二重性——	川口有紀	奨励賞佳作論文	
			作家への道——ブロンテ姉妹の幼年時代	杉村藍	講演要旨	
4	3	2005	ペリー・バヌウのテント ——『 <i>Villette</i> 』における「場所」	杉村寛子	研究論文	無
			「ネリー」とは誰か——『 <i>嵐が丘</i> 』における「呼 称」と「呼びかけ」	川村恵子	奨励賞受賞論文	
			『 <i>Villette</i> 』における教育の二面性	末森恵子	奨励賞佳作論文	
			Christine Alexander and Margeret Smith, <i>The Oxford Companion to the Brontës</i>	岩上はる子	書評	
4	4	2006	ブロンテ研究のはじまり	中岡洋	研究論文	無
			『 <i>嵐が丘</i> 』における魂の合一	藤井章子	研究ノート	
			Christine Alexander and Juliet McMaster (eds.), <i>The Child Writer from Austen to Woolf</i>	中岡洋	書評	
			Dudkey Green (ed.), <i>The Letters of the Reverend Patrick Brontë</i>	白井義昭	書評	
4	5	2007	『 <i>嵐が丘</i> 』のDocumentary Fallacy	川口喬一	巻頭論文	無
			ブランウェルの破滅 ——その実相とブロンテ姉妹への影響——	廣野由美子	論文	
			ジュリエット・バーカー著、 中岡洋・内田能嗣監訳『ブロンテ家の人々』	芦澤久江、橋 本清一、他	特集	

			ジュリエット・バーカー著、 中岡洋・内田能嗣監訳『ブロンテ家の人々』	佐野哲郎	書評	
4	6	2008	シャーロット・ブロンテの小説の可能性 ——『シャーリー』の場合——	玉井暉	巻頭論文	無
			『嵐が丘』におけるInnocence ——ネリーの子ども観とキャサリン——	瀧川宏樹	奨励賞佳作論文	
			『アグネス・グレイ』における隠された 姉妹像	西山裕子	奨励賞佳作論文	
			JaneとSt. Johnの<黙示録> ——Jane Eyreのエンディングを読む——	馬淵恵里	奨励賞受賞論文	
			大田美和著 『アン・ブロンテ——二十一世紀の再評価』	清水伊津代	書評	
			マリアンヌ・トーマレン著 『ブロンテ家と教育』	宇田和子	書評	
5	1	2009	エミリー・ブロンテのモダン・ポエトへの贈り物—— C. day-Lewisの場合——	風呂本武敏	巻頭論文	無
			エミリー・ブロンテ像と『嵐が丘』 ——シャローロットの「伝記的紹介文」と「まえが き」をめぐる——	小田夕香理	論文	
			『ジェイン・エア』における声の呼応	渡千鶴子	論文	
			『白孔雀』と『嵐が丘』の繋がり ——「残虐性」を通して——	山内理恵	奨励賞佳作論文	
			『嵐が丘』における幽霊とvampireの関係	佐美真理	奨励賞受賞論文	
			廣野由美子著『視線は人を殺すか ——小説論11講』	杉村藍	書評	
5	2	2010	サンドラ・ヘイガン/ジュリエット・ウェルズ共編著 『ブロンテ姉妹と芸術の世界』	久守和子	書評	有
			書き直されるJane Eyre ——舞台化作品とメロドラマ	奥村真紀	論文	
			シャーロット・ブロンテのヒロインとしてのスタール 夫人とコリンナ	菟原美和	奨励賞佳作論文	
			中岡洋・芦澤久江（編訳）『シャーロット・ブロンテ 書簡全集/註解』	海老根宏	書評	
5	3	2011	Reflections on Charlotte Brontë, Hero-worship and the Duke of Wellington	Christine Alexander	招待講演	有
			シャーロット・ブロンテとロマン主義時代の歴史小 説・国民小説——『ヴィレット』に見られる枠組みの 変容	鈴木美津子	招待講演	
			「自分」を描く女性たち：シャーロット・ブロンテと エリザベス・ギヤスケル	猪熊恵子	論文	
			絶対解釈によるアン・ブロンテと エリザベス・ギヤスケルのキリスト信仰	大野龍浩	論文	
			『嵐が丘』第9章を英文解釈する ——I am Heathcliffを中心に	岩上はる子	論文	
			Heather Glen, <i>Charlotte Brontë: The Imagination in History</i>	川崎明子	書評	
			Edward Chitham, <i>A Brontë Family Chronology</i>	岩上はる子	書評	
			Akiko Higuchi, <i>The Brontës and Music Second Edition, 2 vols.</i>	清水伊津代	書評	
			トム・ウィニフリズ、エドワード・チタム著、 内田能嗣、早瀬和栄、宮川和子訳『ブロンテ姉妹の作 家としての生涯——シャーロットとエミリーを中心に』	向井秀忠	書評	
			パトリシャ・インガム著、白井義昭訳 『ブロンテ姉妹』	佐野哲郎	書評	
			内田能嗣編著『ブロンテ姉妹の世界』	田中淑子	書評	
			宇田和子編著、小野ゆき子、田中淑子、佐藤 郁子著『ブロンテと芸術：実生活の視点から』	渡千鶴子	書評	
			ブロンテ文学における自然と主体	清水伊津代	講演	
			ヴィクターは矯正されるのか ——『教授』における情熱の問題	片山美穂	論文	
			岡田美津とブロンテ文学	手島伸一	論文	

5	4	2012	ロザリーの解釈を廻って——W.A.クレイクの『アグネス・グレイ』論再考	的場朋子	論文	有
			アン・ブロンテのスカーバラ体験——鉄道開設前後の文化とロビンソン家令嬢と梨園の御曹司の駆け落ち結婚	大田美和	論文	
			「異国」としての病室——Shirleyにおける家父長制と看護婦	村田尚子	奨励賞佳作論文	
			Minako, YAGI, <i>Emily Brontë's World of Creative Contrasts: Realism and the Supernatural in Wuthering Heights</i>	植松みどり	書評	
			長瀬久子著『エリザベス・ギヤスケルとシャーロット・ブロンテ——その交友の軌跡と成果』	田村真奈美	書評	
			風間末起子著『フェミニズムとヒロインの変遷——ブロンテ、ハーディ、ドラブルを中心に』	井上澄子	書評	
			廣野由美子著『一人称小説とは何か——異界の「私」の物語』	玉井暁	書評	
			Cary Fukunaga監督 <i>Jane Eyre</i> (2011)	林完枝	映画評	
5	5	2013	ブロンテ作品を用いた英語・英文学教育——バーサの表象に着目した授業案	斎藤兆史	講演	有
			『ヴィレット』における幽霊——「想像力」の開放と「理性」による抑制	石井麻璃絵	論文	
			ブランウェル・ブロンテのアングリシア戦争詩——ザモーナの凋落と自然のメタファー——	菟原美和	論文	
			"That Glorious World"の言語化の問題	馬場理絵	奨励賞受賞論文	
			消えゆく「声」を読む——『シャーロット・ブロンテの生涯』における女性作家像の限界	野津友里子	奨励賞佳作論文	
			男性主人公・ヒースクリフに課せられた任務——『嵐が丘』における逆説的な性差の描写	衣川二三	奨励賞佳作論文	
			Ann Dinsdale, <i>At Home with the Brontës: The History of Haworth Parsonage and its Occupants</i>	清水伊津代	書評	
			Christine Alexander et al. (eds), <i>Charles Dickens. The Bill of Fare, O'Thello & Other Eraly Works</i>	江口智子	書評	
5	6	2014	<i>Jane Eyre</i> のConventionalityとSpirituality	江口智子	論文	有
			Marianne Thormählen, <i>The Brontës in Context</i>	久守和子	書評	
			Ian Ward, <i>Law and the Brontës</i>	鮎澤乗光	書評	
			David Bolt, Julia Miele Rodas, Elizabeth J. Donaldson (eds.) <i>The Mandwoman and the Blindman: Jane Eyre, Discourse, Disability</i>	川崎明子	書評	
			Minae Mizumura, <i>A True Novel</i> , Translated by Juliet Winters Carpenter	岩上はる子	書評	
			パトリック・ブロンテ著、中岡洋編訳 『パトリック・ブロンテ著作全集』	橋本清一	書評	
			サラ・フェルミ著、内田能嗣・清水伊津代・前田淑江 監訳 『エミリー・ブロンテの日記』	佐野哲郎	書評	
			Andrea Arnold監督 <i>Wuthering Heights</i>	廣野由美子	映画評	
6	1	2015	シャーロット・ブロンテの風景——最後の一笔	白井義昭	講演	有
			『嵐が丘』における語りと沈黙	奥村真紀	論文	
			Muriel Spark, <i>The Essence of the Brontës</i>	海老根宏	書評	
			Maria Edgeworth, <i>The Double Disguise</i>	宇田和子	書評	
			Simon Marsden, <i>Emily Brontë and the Religious Imagination</i>	田村真奈美	書評	
			Shouhua Qi and Jacqueline Padgett (eds.), <i>The Brontë Sisters in Other Wor(l)ds</i>	兼中裕美	書評	
			Juliet Barker, <i>The Brontës: Wild Genius on the Moors: The Story of a Literary Family</i>	猪熊恵子	書評	
			Juliet Barker, <i>The Brontës: Wild Genius on the Moors: The Story of a Literary Family</i>	皆本智美	書評	

			火をつける女たち	服部慶子	講演要旨	有
			ブロンテとウィリアム・クーパー	田村真奈美	講演要旨	
6	2	2016	The Brontës and History	M. Thormählen	講演	
			『ヴィレット』における"My Master"の消失	白井義昭	論文	
			Charlotte Brontësの文学と <i>The Turn of the Screw</i> ——"The Novel Which Has Life"をめぐる——	惣谷美智子	論文	
			『ジェイン・エア』:原風景としてのゲイツヘッド	栗栖美知子	論文	
			共感を求めて:『ジェイン・エア』と翻案のメロドラマ性	奥村真紀	論文	
			英国人作家シャーロット・ブロンテとヨーロッパ ——『教授』におけるヨーロッパ表象——	皆本智美	論文	
			Jane EyreとLucy Snoweにおける「書くこと」の問題	馬場理絵	論文	
			都合のよい真実——『教授』における科学的観察	杉村藍	論文	
			Unheard Utterance: The Silenced "Women-Titan" in <i>Shirley</i>	早川友里子	論文	
			『ワイルドフェル・ホールの住人』における読むことと書くこと の疑似体験	古野百合	奨励賞受賞論文	
			Deborah Lutz, <i>The Brontë Cabinet: Three Lives in Nine Objects</i>	川崎明子	書評	
			『ブロンテと19世紀イギリス 日本ブロンテ協会設立30 周年記念論集』	鮎澤乗光	書評	
			岩上はる子、惣谷美智子編著『ブロンテ姉妹と15人の 男たちの肖像——作家をめぐる人間ドラマ』	前田淑江	書評	
			廣野由美子著『謎解き「嵐が丘」』	市川千恵子	書評	
			ブロンテ文学の科学的分析 ——デジタル人文学の可能性を探る	大野龍浩	講演要旨	
			シャーロット・ブロンテと女性のミッション	栗栖美知子	講演要旨	

◎在庫状況は2016年11月30日現在のものです。

最新の状況は、日本ブロンテ協会事務局までお問い合わせください。